様式10-1

【共通】

課題対応取組報告書

名称	都島区地域包括支援センター
提出日	令和　8　年　6　月　16　日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（　　）		

活動テーマ	高齢者の支援者と障がい者の支援者をはじめとした地域の支援者どうしが相互理解し連携を深める
地域ケア会議から見えてきた課題	本人の認知症や精神疾患に加え、家族に精神疾患のある方など、複合的課題を抱える世帯が増えている。それぞれの分野での支援だけでは解決は困難であり、高齢者の支援者や障がい者の支援者、地域の関係機関の支援者間での相互理解や連携が必要である。
対象	介護支援専門員や介護サービス事業者など高齢者の支援者、障がい者の支援者、地域支援関係者、行政
地域特性	南北に長い都島区の南半分で、区役所や区民センター、図書館、警察署、消防署等の公共機関や、大阪メトロ・JR・京阪電車といった交通機関の駅が複数あり、利便性のよい圏域である。北区や城東区、中央区と隣接している。京橋周辺の商業施設や飲食店が多く並び若い世代の単身者が多いエリアや、築年数の古い戸建てや長屋・アパート、新旧の大型マンションが混在するエリアなど、地域により雰囲気や住民層が異なる。また住民が高齢化している築40年を超えるマンションや集合住宅が複数点在し、近隣関係の希薄化が課題となっている。便利であるため買い物などの日常生活は行えるが、課題を抱えたまま潜在化し、家賃滞納や不衛生状態などの住民トラブルで退去に発展したり、金銭管理ができず電話や電気・ガスなどのライフラインが止まるといった、重篤な在宅生活困難状態になるまで把握されないケースが増えている。
活動目標	高齢者の支援者と障がい者との支援者をはじめとした、支援者どうしの相互理解や連携を強化する。 介護支援専門員や介護サービス事業者、地域関係者を対象に「都島区介護事業者研修会・多職種交流会」を実施し、障がい者の支援者にも参加を呼びかけ、共通のテーマを取り上げて、グループワークを通して顔の見える関係づくりをおこなう。
活動内容（具体的取組）	第13回都島区介護事業者研修会・多職種交流会「アンガーマネジメント～怒りの鉾先」 日時：令和7年11月21日（金）午後2時～4時 場所：まるよし精肉店都島区民センター　1階ホール 講師：上田治彦氏（日本アンガーマネジメント協会認定ファシリテーター） 参加人数：70人 内訳 介護支援専門員29人（うち法定外研修としての受講者21人）、訪問介護・訪問リハ・通所介護・通所リハ・福祉用具・高齢者施設等高齢者の支援機関4人、障がい者の支援機関22人、地域福祉コーディネーター・行政・オレンジチーム・包括支援センター・ブランチ等15人。 令和6年度に開催した第12回都島区介護事業者研修会・多職種交流会では、「カスタマーハラスメント」をテーマとした。受講後のアンケートでは、職員のメンタルヘルスやストレス対策の希望があった。障がい分野の支援者と協議し、令和7年度は「アンガーマネジメント」をテーマとして開催した。研修で知識を得るとともに、多様な職種が顔の見える関係づくりができるよう、グループワークの形式とした。活発な意見交換ができ、研修会終了後は名刺交換会をおこなった。なお、大阪介護支援専門員協会に申請登録し、介護支援専門員資質向上研修（主任介護支援専門員法定外研修）としても位置づけた。 講義では、怒りの感情を理解し、自分の傾向を認識とコントロールによる自身のストレス対策や、支援対象者や家族を理解する一助として、業務上の対人援助に活かすこと、また、職場での人間関係に活かし、離職防止につなげることなどが語られた。
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	アンガーマネジメントについて基本的な考え方を学習しながら、講義の合間に、自分が感じていること、相手が感じていることを共有する場が何度も盛り込まれ、講師の経験を通しての具体的な事例や、対応方法を学んだ。グループワークでは参加者それぞれの体験談を共有し、質疑応答で会場全員の参加者で情報共有をおこなった。 アンケートでは「怒りは悪いことではなく表し方が大事」「怒りはコントロールできる」「自分の物差しを知ることができた」「多職種、障がい者の支援者との関係づくりができた」「来年度も開催してほしい」「主任介護支援専門員法定外研修としての位置づけがありがたい」等の意見を得、実践的な研修となった。 「今後も多職種での顔の見える関係づくりが必要」「多職種交流会の機会があれば参加したい」との意見が多数あっ

	た。
今後の課題	ケース支援では、日ごろからの顔の見える関係が円滑な支援につながる。引き続き、高齢者の支援者と障がい者の支援者をはじめとした、多様な地域の支援者どうしの顔の見える関係づくりや交流の機会、支援を必要とするケースの早期発見や重度化予防のための居場所づくり、情報共有が必要である。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月23日（ 木 ）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	認知症や精神疾患等、複合的課題を抱える世帯が増えている。それぞれの分野での支援だけでは解決は困難であり、高齢者や障がい者の支援者、地域の関係機関の支援者間での相互理解や連携が必要である。令和6年度に開催した第12回都島区介護事業者研修会・多職種交流会では、「カスタマーハラスメント」をテーマとした内容であったが受講後のアンケートでは、職員自身のメンタルヘルスやストレス対策の希望があり障がい分野の支援者と協議の結果、令和7年度は「アンガーマネジメント」をテーマとしての開催となった。専門職を招き研修会と交流会を実施し、支援者間の顔の見える関係作りの促進や地域ケア会議の課題解決への取組みを計画的に進め、段階に応じた成果がみえたことは大変評価できる。今後も関係機関との連携強化を図ってほしい。